

I 屋嘉田潟原の漁場環境と増殖対象生物

1 位置と形状

この海域は沖縄島の中央部、西側にあり、恩納海岸国定公園に属していて、漁場環境としても比較的よく保全されている。

面積はおよそ230 ha、西から北西側は外海に面し、高さ0 m（潮位の基準面）の礁原によって外海域と区分されている。東および東南側は陸地によって囲まれている。南西側は礁原が一部切れていて、礁湖中央部近くまで入り込んでいる水路がある。

水路とそれに続く boat channel によって、この海域は大きく2つに分けられる。すなわちこれらから陸側に至る部分と礁原に至る部分である。前者はほとんど潮干帯に属していて、砂礫帯、アジモ帯および砂質帯に分けられる。後者は水路および boat channel を含み、大部分が広い礁湖になっている。礁湖の水深は2 m 以上のところは少なく、1~2 m のところが多い。

礁縁や礁内には小さな島々が点在しているので、干潟海域は礁湖にくらべて波は一層おだやかである。

調査は本海域を200 m × 200 m に区画し、図-2に示すように区画番号を設定して行った。

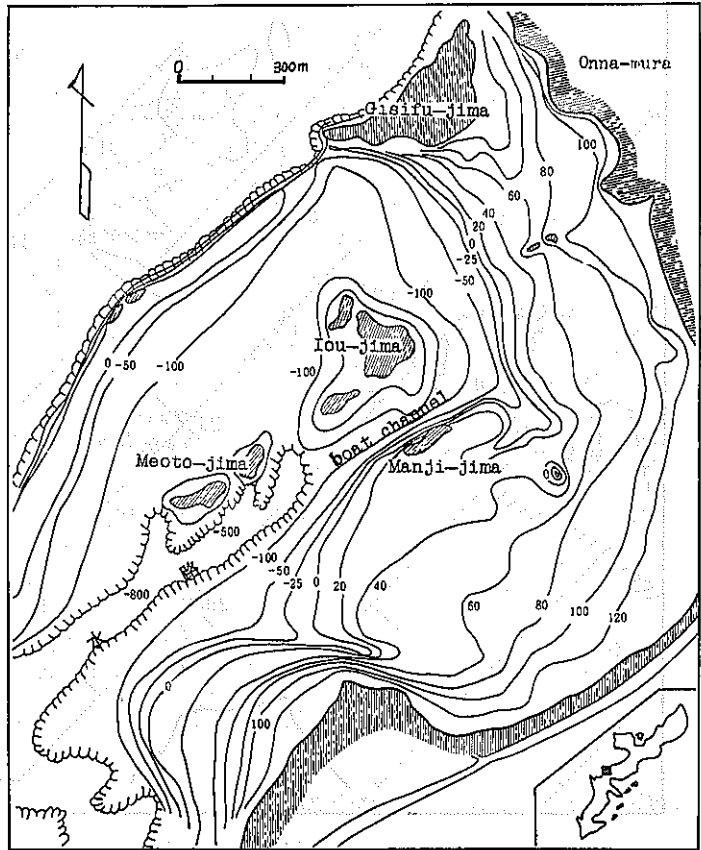
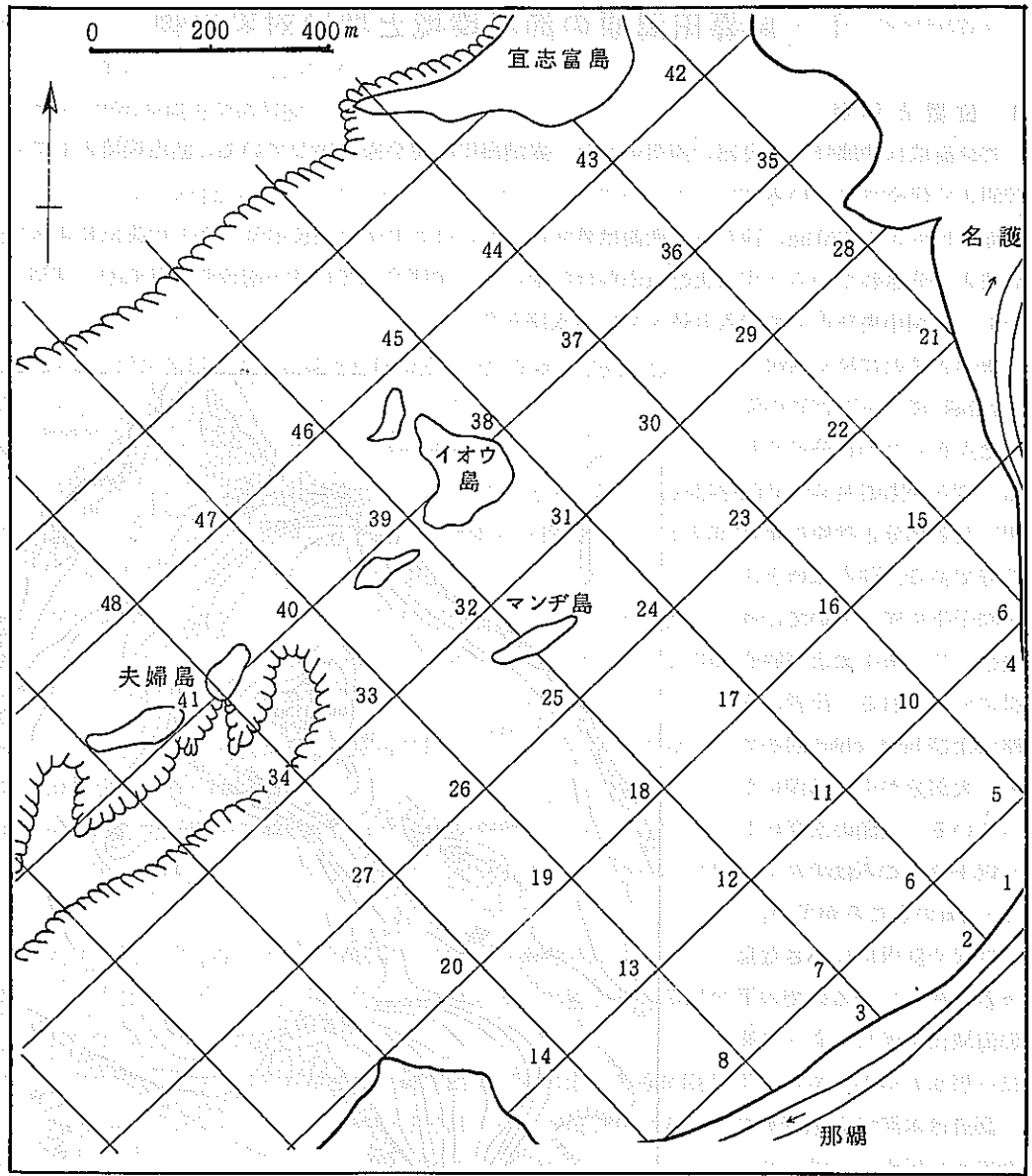


図-1 屋嘉田地先における海底地形 数字は潮位の基準面よりの高さ、cm



図一 屋嘉田潟原の調査区画